

科目名	中等教科教育法Ⅰ（音楽）			担当教員	宮本 賢二郎
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	ED1JTM227
期待される学修成果	教科教育 学校と社会				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽教育の基本理念を把握・理解し、音楽教育の目標の達成のために必要な指導内容、指導方法について捉える。それらを踏まえて、音楽教育の実践に向けて必要な指導力の基礎知識、技能を獲得できるようになる。				
授業の概要	中等音楽科教育の理念・目的、指導内容、教材等の基本的事項について、分野ごとに事例を挙げ、その実践を踏まえながら各事項について概観する。それをもとに、学校教育における音楽科の位置づけについて検討した上で、学習指導要領に示された指導目標、各分野の指導の意義や留意点、等について、指導方法例や実践事例の検討等を通して、音楽指導について実践的に研究し、指導計画を構想する。				

授業計画	
第1回	1. ガイダンス（テスト内容・日程） 2. 学校教育における音楽科の位置づけについて。 3. 輪唱による導入
第2回	1. 中学校学習指導要領に示された音楽科の指導目標。 2. 歌唱教材・指導研究 「We'll Find the Way」他 3. 模擬授業グループ決め
第3回	1. 音楽科の各領域と分野の指導内容の外観。 2. コードによる伴奏の基礎 「エーデルワイス」C-Durコード（C-Dur以外は中等科教科教育法 音楽IIでテストを行う）
第4回	1. 学習指導計画にあたって必要な事項を捉え、学習指導案の作成の方法、手順を概観した上で、指導案を作成する。グループ作業：フォームと項目の確認 PCを持参すること。
第5回	1. 歌唱指導について学習指導要領との関連から捉える：内容の取扱い。 2. グループ活動：学習指導案の作成：単元と教材の評価規準を確認する。 3. 歌唱教材・指導研究 「朝の風に」他
第6回	1. 総合学習 2. 器楽指導、学習指導要領との関連・内容の取扱い。 3. 器楽教材・指導研究 リコーダーレッスン1・2他 「さんば道」 4. グループ活動：指導案作成：本時の評価規準と〔共通事項〕
第7回	1. 日本の伝統音楽と世界の諸民族の音楽。学習指導要領との関連、教材研究資料への手引き。 2. グループ活動：指導案1-6（本時の展開前）までロイロノートで発表 単元の目標と評価規準は何か
第8回	1. 歌唱共通教材伴奏試験：「浜辺の歌」「赤とんぼ」 2. 歌唱教材研究 「Forever」
第9回	1. 創作と鑑賞指導について、学習指導要領との関連から捉え、指導例の検討を行う。 2. グループ活動「本時の展開」の目標と評価規準についてクロスセッション⇒グループごとにロイロノートで発表
第10回	各自が作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実践内容について検討する。 グループ1・2 40x2グループ 歌唱・創作
第11回	各自が作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実践内容について検討する。グループ3・4 40 x 2グループ 器楽（レッスン1または2）・鑑賞（任意の単元）
第12回	模擬授業の振り返り。グループディスカッションからクロスディスカッション。模擬授業レポート作成について。
第13回	実践的教材研究：器楽アンサンブル アルトリコーダー 「木陰の思いで」（中等IIでテスト）
第14回	1. エーデルワイス コード伴奏 テスト 2. 実践的教材研究：「Let's search for tomorrow」
第15回	1. これまでの学習内容を振り返り全体を総括する。学修達成度の確認試験を行う。 2. 輪唱を利用した〔共通事項〕による指導「うたういましょう」

事前学修	2時間	予定に示された教材曲についてはかならず事前に譜読みしておくこと。歌唱・アンサンブル・模擬授業のグループ分け、パート分け等の講義運営に関しても自ら主体的に関わり、柔軟性をもって、ともに講義を学びの場にするよう準備を行う事。
事後学修	2時間	音楽科の目標を整理し、歌唱、器楽、創作、鑑賞の各分野の意義と指導の留意点を整理しておくこと。ピアノ・歌唱については教材曲を題材に継続的に取り組むこと。特に模擬授業にグループでしっかり取り組んでいるか、指導案の書き方の基本を理解しているかを重視する。できるだけ事前に相談に来ること。

フィードバックの方法	レポート・試験について個別評価もしくは総評を口頭説明または配信する。
------------	------------------------------------

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	必要事項を押さえ、自己の課題を把握し克服のために主体的に取り組んだ内容であるか。
上記以外の試験・平常点評価	60%	確実な技術、講義内容の理解。難易度によりレポートとの配分は変わることがある。
定期試験	0%	実施しない。
補足事項	模擬授業の準備、振り返りを行う授業ではタブレットまたはPCを持参すること。 また、教科書は令和7年度改訂版を購入すること。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版最新 中等科音楽教育法	中等科音楽教育研究会編	音楽之友社	978-4-276-82019-7	新学習指導要領準拠のものを使用
中学生の音楽1	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
中学生の音楽2・3上	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
中学生の音楽2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
中学生の器楽	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
参考資料	各学年指導書 実践編・研究編・伴奏編			

科目名	中等教科教育法Ⅱ（音楽）		担当教員	宮本 賢二郎	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2JTM228
期待される学修成果	教科教育 学校と社会				
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	中等科音楽教員として求められる基礎的な知識や技能を獲得すると共に、幅広い活動に対応しうる音楽指導の実践力を獲得できるようになる。				
授業の概要	学校音楽教育における様々な音楽活動に関する指導法について、実技指導・授業スキルを確実に身に着けると同時に、実践的な観点から教材研究を行っていく。				

授業計画	
第1回	1.ガイダンス、模擬授業グループ決め。2.学習指導要領：音楽科教育の目標と指導内容を捉える。3.グループ学習：指導案作成 4.歌唱教材研究 「夢の世界を」
第2回	1.歌唱指導の目標と指導内容。2.指導案作成：本時の展開作成、題材・教材の目標と評価規準の確認 3.合唱教材研究 「翼をください」
第3回	1. リコーダー 「木かげの思いで」練習 2.本時の指導計画と評価規準、〔共通事項〕の確認。
第4回	1. コード伴奏テスト（主は冷たい土の中に） 2. グループ活動：クロスセッション：本時の評価規準と〔共通事項〕 3. 教材研究 「未来への旅」
第5回	1. アルトリコーダーテスト 2.鑑賞の指導と留意点 3.グループ活動：本時の展開中間発表「本時は何を学ぶべき時間なのか」（クロスディスカッション） 4.教材研究 「時の旅人」
第6回	模擬授業 歌唱 「夏の日の贈りもの」（2グループ：A第1時；B第2時）
第7回	模擬授業 歌唱 「Joyful, Joyful」（2グループ：C第1時；D第2時）
第8回	1. 擬授業振り返り。レポート課題について。2. 器楽指導 ギターの基礎 調弦・持ち方、基本演奏・コード テストを第13回に行う。
第9回	1. 伴奏+歌唱テスト 「夏の思い出」「荒城の月」 2.日本の伝統音楽
第10回	1.器楽と鑑賞指導の目標と指導内容。指導用内容に重点をおいて整理する。2. グループ活動 指導案の作成（略案） 3.歌唱教材研究 「大切なもの」
第11回	模擬授業 器楽2グループ 「千の風になって」グループA：第1時 グループB：第2時
第12回	模擬授業 鑑賞 グループC：「交響曲第5番」第1時 グループD：「勸進帳」第1時
第13回	1.授業振り返り。 2. ギターテスト 「カントリーロード」 3. 音楽劇指導への導入（歌詞の解釈と身体表現・題材は変更可）
第14回	1.音楽表現と身体表現・演技の基礎 2.音楽作品「時の旅人」の一部を演じてみる。歌詞の朗読、演技の指導法。演出シーンの発表（グループ別）
第15回	1.学修達成度の確認試験を行う。 2.カノンの活用 「うたいましよう」「Dona Nobis Pacem」

事前学修	2時間	予定に示された教材曲については必ず譜読みしておくこと。歌唱やアンサンブルのパート分け、模擬授業のグループ分けなど講義の運営にも主体的・積極的に関わり、未来の「教員」としての自覚をもって準備に臨むこと。
事後学修	2時間	歌唱、器楽、創作、鑑賞の各分野の指導の意義、内容や指導方法について振り返り、それぞれの要点を整理しておくこと。ピアノ・歌唱については教材曲を題材に継続的に取り組むこと。特に模擬授業にグループでしっかり取り組んでいるか、指導案の書き方の基本を理解しているかを重視する。できるだけ事前に相談に来ること。
フィードバックの方法	レポートやテストの個別評価もしくは総評を、口頭または配信により説明する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
--------	-------	-------

レポート	40%	必要事項を押さえ、自己の課題を把握し克服のために主体的に取り組んだ内容であるか。
上記以外の試験・平常点評価	60%	確実技術と講義内容の理解。難易度によりレポートとの点数配分が変わることがある。
定期試験	0%	実施しない。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版最新 中等科音楽教育法	中等科音楽教育研究会編	教育芸術社	978-426-82019-7	なし
中学生の音楽1	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
中学生の音楽2・3上	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
中学生の音楽2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
中学生の器楽	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
参考資料	各学年指導書 実践編・研究編・伴奏編			

科目名	中等教科教育法Ⅲ（音楽）			担当教員	宮本 賢二郎
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	ED2JTM229
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	中等科音楽教員として必要な指導のための知識や技能の基盤を獲得する。その上で、それらの質的な向上を目指す。中等科の音楽教員として様々な音楽指導にあたる上で求められる総合的な実践力を獲得できるようになる。				
授業の概要	特に小学校の指導法との連続性、系統性を意識した教材研究および指導法に焦点を当て、実践的な指導力を身につける。模擬授業を通して学習指導計画および授業の実際を体験する。表現活動に演出・演技等の要素も加え。学校音楽教育における幅広い指導方法を身につける。				

授業計画	
第1回	1. 小中の比較を通して指導案の本質を理解する。小学校における題材の構成の特徴 2. 題材選択・指導計画の作成（グループ作業）
第2回	1. 小中比較 単元構成の違いと指導案作成上の注意 指導書 グループ作業 * 小学校の教科書を持参すること
第3回	1. 教材研究、鑑賞指導の留意点、共通事項の活用について：表現活動における鑑賞活動の重要性を踏まえて理解する。 2. グループ作業：模擬授業準備
第4回	1. 教材研究「大地讃頌」（第10回にパート範唱・合唱指導テスト）、2. 模擬授業準備（本時の展開についてクロスディスカッション）
第5回	模擬授業 小中接続を考える。1年「はる なつ あき ふゆ」 2年「こぎつね」
第6回	模擬授業 小中接続を考える。3年「あの雲のように・アチャ・パチャ・ノチャ」 4年「ゆかいにあるけば」
第7回	模擬授業 小中接続を考える。5年「夢の世界を」 6年「思い出のメロディー」（第2時中心）
第8回	1. 1. 模擬授業振り返り 小学校から中学校への系統性を確認する。 2. 教材研究「大地讃頌」第10回 範唱による合唱指導テストの説明
第9回	1. 歌唱共通教材 伴奏＋歌唱テスト 花・花の街、早春賦（当日指定）2. 教材研究・鑑賞と共通事項を中心とした学習の要点（最終講義テスト内容）
第10回	指揮と範唱による指導法 合唱曲を題材に ー指揮の活用「大地讃頌」強弱・フレーズの表現を引き出す（またな音楽劇の指導法、話し合いにより変更可）
第11回	試験：合唱指導テスト「大地讃頌」範唱と指揮による指導：指定されたパートを範唱し、音程・リズム・表現を伝え、指導する。
第12回	1. 音楽劇教育の実践 歌詞と音楽の関わり 情景との関わりから『魔笛』『パパゲーノとパパゲーナの二重唱』（予定）（小学生の音楽4）を題材に＜音楽の要素＞とその表現を追求する
第13回	1. 「パパパ」を演じてみる。ペアワーク、テスト：発表とディスカッション
第14回	ギターの演奏技術：旋律とコードの演奏「大きな古時計」 中等科教育法Ⅳでテスト
第15回	学習全体を振り返り、音楽教育実践において教師に求められる資質を整理し全体を総括する。学修達成度の確認試験を行う。 試験内容：教材研究、鑑賞指導の留意点、共通事項の活用、評価規準、指導案の構成（中等科音楽教育法）

事前学修	2時間	題材として扱う教材曲について譜読みしてくる。グループ分け、パート分けなど講義全体の運営に学生も主体的に取り組み、「教員」の視点で参加すること。模擬授業に際しては、中等科教育法Ⅰ・Ⅱで扱った学習指導要領の内容を熟読し、授業計画・指導案に生かすこと。模擬授業に際してはできるだけ事前に相談に来ること。
事後学修	2時間	検討した事例実践について振り返り、要点を整理しておくこと。模擬授業を振り返り、今後の課題を整理しておくこと。
フィードバックの方法	レポート・試験について総評を口頭またはコメント配信により説明する。	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
レポート	40%	必要事項を押さえ、自己の課題を把握し克服のために主体的に取り組んだ内容であるか。
上記以外の試験・平常点評価	60%	確実な技術と講義内容の理解。難易度によりレポートとの配分は変わることがある。
定期試験	0%	実施しない。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版最新 中等科音楽教育法	中等科音楽教育研究会編	音楽之友社	978-4-276-82019-7	新学習指導要領準拠版を使用
中学生の音楽 1	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
中学生の音楽 2・3上	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
中学生の音楽 2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
中学生の器楽	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
参考資料	各学年指導書 実践編・研究編・伴奏編 第4回から6回の講義では「小学生の音楽」1-6, 「初等科音楽教育法」も参照します。			

科目名	中等教科教育法Ⅳ（音楽）		担当教員	宮本 賢二郎	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3JTM230
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	PBL(課題解決型学習)				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	中等科および高等学校の音楽教員に必要な高度な音楽指導法を追究する。海外の合唱指導法や、音楽劇教育の要素を学び、多様な音楽活動に対応しうる指導の総合的な実践力を深めることができるようになる。				
授業の概要	海外の教育・指導法など理論的な知識、模擬授業、音楽劇、合唱や合奏等のアンサンブル活動、鑑賞活動等の取り組みを通して総合的な実践的な指導力を身につけていく。				

授業計画	
第1回	①ガイダンス・模擬授業グループ決め、輪唱「オーケストラ」楽器割り当て ②ギター試験 「大きな古時計」
第2回	輪唱を活用した指導法 ①対位法への導入「ハレルヤ」「うたえ、いざ」 ②器楽と関連させた輪唱「オーケストラ」（オーケストラに出てくる楽器を持参すること）
第3回	器楽と関連させた輪唱「オーケストラ」（楽器を交えグループごとに発表）
第4回	模擬授業：代表的な題材 ①歌唱「赤とんぼ」 ②鑑賞「魔王」
第5回	模擬授業：代表的な題材 ③歌唱（合唱）「Let's search for tomorrow」 ④鑑賞「敦盛」
第6回	①外国における歌唱指導法：スウェーデンの合唱指導法を例に ②外国曲の合唱指導：2声の合唱曲 フォーレ「Maria Mater Gratiae」「Ave verum」「Tantum ergo」
第7回	②外国曲の合唱指導3声の合唱曲 フォーレ「Maria Mater Gratiae」「Tantum Ergo」 モーツァルト「Ave Verum Corpus」-テクスチュアと音色の追求-
第8回	①日本の音楽教育の歩み ②フォーレ「Maria Mater Gratiae」「Tantum Ergo」ラテン語発音の基礎 教材としての印象派合唱曲 <音色表現の追求>
第9回	音楽科と道徳教育 合唱教材を通して 環境「地球のこども」 障害者への理解「なずな」 友情「きみとともに」（中等科音楽教育法2・3下 p.116-117）
第10回	音楽劇教育の可能性：鑑賞と表現を融合させた授業① 鑑賞教材「レ・ミゼラブル」を通して 登場人物と概要 鑑賞(One Day Moreを中心に) 社会・人権教育
第11回	音楽劇教育の可能性：鑑賞と表現を融合させた授業② 鑑賞教材「レ・ミゼラブル」を通して 社会・人権教育 鑑賞と演技体験による理解 準備：キャストイング；「One Day More」歌唱練習 A/B組
第12回	音楽劇教育の可能性：鑑賞と表現を融合させた授業③ 授業としての演出指導の基礎 「情景演出法」<One Day More>を題材に
第13回	音楽劇教育の可能性：鑑賞と表現を融合させた授業④ <One Day More> 革命の時代背景を踏まえ、情景・人物の感情を表現する演出を考える。
第14回	音楽劇教育の可能性：鑑賞と表現を融合させた授業⑤ <One Day More> リハーサルと授業内発表 レポート課題「音楽劇教育の制作過程をまとめ、鑑賞と表現領域における学習要素を整理すること」
第15回	学修達成度確認テスト 内容 -日本の音楽教育の歩み-他

事前学修	2時間	予告する教材曲については、歌唱・演奏活動をおこなうため、指示された曲についてはかならず譜読みをすること。グループ決め、合唱・演奏のパート分けなどについても指示を待つのではなく、自分たちでも自発的に関わり、「教員」としての自覚を持つこと。
事後学修	2時間	本講義では海外の実践・指導法など教科書には記載されていない情報が多いため、かならずノートをしっかりとリ、復習しておくこと。歌唱や器楽等の学習のねらいと学習形態との関りについて模擬授業を振り返り、今後の課題を整理しておくこと。
フィードバックの方法	課題・レポートの総評について口頭もしくは配信によりコメントする。	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
レポート	40%	基本事項を押さえ、自己の課題を把握し克服のために主体的に取り組んだ内容であるか。
上記以外の試験・平常点評価	60%	実技試験の回数・難易度によりレポートの割合を変えることがある。
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版 最新 中等科音楽教育法	中等科音楽教育研究会	音楽之友社	978-4-276-82019-7	新学習指導要領準拠を使用
中学生の音楽 1	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
中学生の音楽 2・3上	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
中学生の音楽 2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
中学生の器楽	教育芸術社編	教育芸術社	未発表	令和7年度版を使用
参考資料	各学年指導書 実践編・研究編・伴奏編			